

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	児童発達支援センターでいじい		公表日 令和8年 1月 24日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9	0	指定の基準の広さを確保している。	利用者数や活動内容に応じて部屋を分けるなど工夫してスペースを確保していきます。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8	1	国の人員配置基準に基づいて配置している。	児童の実態や特性によっては配置基準以上に職員が必要な場合もある。配置基準を満たしているが、利用者数にバラツキがある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8	1	エレベーター、スロープ、手すり等のバリアフリー化がされている。ドアや窓は指を挟みにくい作りになっている。	おもちゃや療育グッズの整理整頓についても、こどもたちがしやすいよう構造化をすすめていきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9	0	毎日の清掃、消毒を行い清潔な環境づくりを心がけている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	0	体調や精神状態、障害特性に応じて、学習室や医務室など、個別対応に使用している。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8	1	多くの職員研修でPDCAサイクルの内容が周知されている。	全職員がPDCAサイクルに基づき必要に応じて話し合いの場を設けるよう努めていきます。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	1	評価表により意向等を把握している。	評価表の結果を踏まえて改善目標を立て、支援の質の向上を図るよう支援会議の内容に取り入れていきます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	1		全職員が情報を共有できるよう、現状把握や支援の方向性について意見を出し合う場を増やしていきます。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	4		第三者委員を設けており、保護者にも説明しているが、日常的に関わる機会がない。今後第三者による専門的・客観的な立場からの評価を受ける機会を設け、より良いサービスを提供できるように努めていきます。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9	0	必須の研修は法人主体で開催しており、全員が参加できるよう勤務を調整している。各職員の希望や必要性に応じて、外部の研修にも参加している。外部研修の際には研修に参加できない職員に対しても書面で内容を共有できるように努めている。	
適切な支援の提...	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9	0	作成した支援プログラムを、HPと玄関掲示にて公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	9	0	利用開始前に保護者からの聞き取りを行い支援計画を作成している。保護者のニーズばかりに偏らないよう、こども本人の利益を最優先した計画となるよう心がけている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	1	児童発達支援計画を作成するときには支援の方向性や内容について職員が共有できるような場を設けている。支援会議では各職員から情報を提供し合い、多職種がそれぞれの視点から、その子の最善の利益に繋がるよう意見を出している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	1	支援計画をファイリングし、必要な時には確認できるよう現場にも置いている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	2	発達検査を受けられた利用者に関しては、その内容を共有し支援に生かしている。病院等で実施した発達検査の結果をご提示頂き、参考にしている。	事業所内のアセスメントツールについては検討中
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	2	毎月の行事予定はチームで意見を出し合い、各担当者を中心に行程表を作成している。日々の活動プログラムは、その日の行事予定にプラスして、支援に当たる職員の意見を取り入れて予定している。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9	0	定期的に行うプログラムにプラスして季節に応じた活動を取り入れたり、イベントを開催して、マンネリ化しないようにしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	9	0	こどもの状況に応じて、集団活動への参加を無理強いせず、その子のペースに合わせて支援をするよう心がけている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	1	毎朝ミーティングを行い情報共有を行っている。	勤務時間の違いから、情報共有のモレがないように工夫していきます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	2	気付いた点等を話し合っているが、記録にも残して、共有できるようにしていきたい。	必ず打ち合わせができていないわけではない。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6	3		支援の記録に関しては毎回しっかり取れていない。記録が追いついていない状況。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9	0	定期的にモニタリングの機会を設けている。保護者の意見やこどもの状況に応じて、必要があれば早めに計画の見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9	0	管理者、児発管の参加が多いが、そのこどもの事をよく把握している現場の職員も参加することがある。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9	0	必要に応じて、各関係機関と連携して対応している。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9	0	相談員を通して情報共有を図っている。サポートファイルの作成や保育所等訪問支援、担当者会を通して園との支援内容の情報共有を図っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9	0	サポートファイルの作成を保護者に依頼し、園や医療機関等にも記入をお願いしている。完成した物を小学校へ繋いでいる。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	6	0	子ども支援部会を通して連携を図っている。	
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	6	1	職員に対して、未就学児に関する研修案内は、積極的に参加を促し、専門性の向上を推進している。	
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	9	0	自立支援協議会子ども支援部会へは、児発管が管理者が毎回出席している。協議会が開催する研修にも参加して意見交換を行っている。	
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	4	4	地域のこども食堂に参加することはある。	保育所等も行事など忙しい中でなかなか地域との交流が難しいのが現状であるが、今後、地域のこども園等との交流も企画していきます。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	1	送り迎えの際、ケア記録を通して情報共有を図っている。課題がある場合は、適宜お伝えし支援の方向性を共有している。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	1	ペアメンCaféの会場提供と案内をしている。親子参加のイベントで、保護者向けの支援プログラムを実施。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9	0	利用開始時に一通りの説明を行っている。不明なことがある場合は随時説明している。	堅苦しい文章を分かりやすく説明できるよう心がけていきます。
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9	0	利用開始時やモニタリングの際に保護者の意向を聞き取りしている。支援計画が保護者目線に偏ることなく、こどもの最善の利益に繋がるよう心がけている。		

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	9	0	児発管から、ニーズと支援内容について丁寧に説明し、計画書にサインをいただいている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9	0	モニタリングの際や送迎時に家庭での様子や悩みを聞く時間を設けている。内容を職員間で共有し、支援へフィードバックさせている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7	2	保護者やきょうだい児も参加できるイベントを開催し、交流できる機会を設けている。	現在、父母の会の活動は行っていない。今後検討します。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9	0	相談や申し入れがあった場合は、面談や電話対応にて迅速かつ丁寧に対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9	0	HUGのアプリ以外に、グループLINEを利用者ごとに作成している。日々の活動の様子をひまわり通信やSNSで発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9	0	個人情報に関する物は鍵付きの書庫で保管している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9	0	必要に応じて、イラストを使用したり、外国語に翻訳するなどの配慮をしている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	3	地域の施設を利用することで地域交流を図っている。	事業所に地域の方を招待するイベントも今後企画していきます。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9	0	各種マニュアルを作成し、いつでも閲覧できるよう玄関に設置している。	訓練等の取り組みについても周知をしていきます。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9	0	BCPを策定し、定期的に見直しや訓練を行っている。個別に対応が必要なこどもに対しては、保護者に非常食を用意して頂きお預かりしている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9	0	利用開始時に母子手帳のコピーを取らせていただいている。利用開始時と定期的に、健康状態の確認を実施し職員間で共有している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9	0	検査結果を提示していただいたり、必要に応じて緊急時のお薬と服薬依頼書をお預かりしている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9	0	作成した安全計画に基づき、定期的な点検、研修、訓練を行っている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	1	契約時の説明に加え、いつでも閲覧できるよう玄関に設置している。	訓練などの様子もSNS等で周知していきます。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	1		些細なことでも報告検討し合える職場の雰囲気作りをしています。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9	0	法人内の研修だけでなく、外部の研修にも職員を参加させている。研修を通して意識を高め、職員同士が日々点検し合いながら、虐待防止に努めている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	9	0	契約時に、身体拘束についての説明を必ず行っている。		